

科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）

授業科目名：英語科教育法3

登録学生数：25名

発問づくりの活動を通して教科書英文の指導力を育成する

所属・氏名：英語教育講座 立松大祐

1. はじめに

本授業は中学校教員免許状（外国語）取得に必要な指導法の授業であり、講義、グループ学習、英語授業実践の視聴と分析、模擬授業、さまざまな言語活動体験などの学習活動を通し、英語教師に必要とされる知識・技能の習得を目指すものである。扱うテーマは、4技能の総合的育成、小学校外国語と小中連携、発問づくり、音読指導、文法の学習と指導、教室内第2言語習得研究と言語活動などである。本報告においては、特に教科書英文を材料にした発問づくりを通して、発問が授業の三大要素である生徒・教師・教師をつなぐ媒介の役割を果たすことを学び、指導力向上を目指す実践に焦点を当てる。

2. 授業の概要

履修者は(1)英語教育を行う上で必要となる、基礎的な専門知識を身に付けること、(2)授業実践の視聴と分析、模擬授業を通し、学習指導案作成などの単元指導計画、指導技術等を理解し、授業を省察する力を向上させること、(3)言語活動の体験を通して、指導のアイデアや指導技術を豊かにし、指導上の留意点への理解を深めることを目標にしている。

本授業の開講は前期であり、今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により対面と Microsoft Teams を活用した遠隔（同期型）の授業を行った（表1）。

表1 授業形態と主な授業内容

回	形態	内容
1	対面	オリエンテーション、言語学習の通説
2	対面	日本の英語教育の動向、英語授業実践の視聴
3	遠隔	英語授業実践の視聴と分析
4	遠隔	小学校外国語と中学校外国語の連携、英語授業実践の視聴と分析
5	遠隔	「CAN-DO リスト」の形での学習

		到達目標の設定と指導
6	遠隔	教科書の英文を用いた発問づくり
7	遠隔	英語授業実践の視聴と分析
8	遠隔	学習者の個人差
9	遠隔	教室内第2言語習得研究（1） （インプット仮説、アウトプット仮説、インタラクション仮説）
10	遠隔	教室内第2言語習得研究（2） （インプット仮説、アウトプット仮説、インタラクション仮説）
11	対面	フォーカス・オン・フォームによる文法の学習と指導
12	対面	模擬授業（1）
13	対面	模擬授業（2）
14	対面	模擬授業（3）
15	対面	CLIL（内容言語統合型学習）

本授業では教科書として松山市立中学校で採用されている教科用図書である **New Horizon English Course 2**（東京書籍）を使用している。これは、授業で学習した理論的または実践的な内容を具体的な教材で確認したり、応用方法を考えたりするためであり、教員志望者にとって実際的な学びとするためである。その一つの例が教科書英文からの発問づくりである。授業の三大要素は教員、児童・生徒、教材であり、授業での発問は触媒としてその三者を結び付け、授業目標の達成に導くものである。したがって、教員志望の受講者が発問づくりの知識とスキルを身に付けるのは、授業力を向上させるのに不可欠である。

発問づくりのスキルは一朝一夕には身に付かないものである。そこで、受講者に教科書本文の発問づくりを帯活動として行わせ、受講期間を通して発問について取り組ませるようにした。基本的な指導方法としては、教科書の本文を指定して制限時間内に自由に発問づくりを行わせ、ペアや小グループの相手にそれらの問題に回答させたり、発問の英文に誤りがないか確認させたりした。また、授業時間外の課題として指定した英文の発問

を作り、次の授業でペアや小グループで回答し合う方法も実施した。さらに、小テストとして作成した発問を Moodle に提出させることも行った。受講生が発問づくりについての感覚をつかむ頃になる第6回の授業では、発問の目的や機能などについての理論的説明を行い、受講者が行ってきた発問づくりを整理した。その後の授業からは、形式としては yes/no 疑問文、wh-疑問文、選択疑問文、true/false 疑問文を取り入れ、事実発問、推論発問、個人発問を作成するよう促し、発問づくりを段階的に指導した。

次の質問例は、第7回授業において受講者に New Horizon 2 の Let's Read 1 (p.52)の本文について、事実発問、推論発問、個人発問とそれらの想定される答えを Moodle に入力させた、ある受講生の小テストの疑問文と想定される回答例である。

事実発問

Q: Who developed the first clocks in the world?
A: Egyptians made the first clocks in the world.

推論発問

Q: Why did Egyptians start using the sun to read the time about 6,000 years ago?
A: Because the sun comes up every day and it makes shadow.

個人発問

Q: What type of clock do you like?
A: I like the digital one.

その後の授業でも発問づくりを継続し、受講生は「リーディング教材を使った授業例」という授業実践ビデオを視聴し、授業の活動、学習形態、授業者の発問、英語使用による生徒とのインタラクション、その他授業の工夫点や他に気がついたことをまとめ Moodle に提出をした。次に示す例は、ある受講生が提出したレポートから発問づくりにつながる部分を抜き出したものである。

生徒にテキスト本文のリーディングポイントを先に与え、読む目的を明確にしてから生徒が集中して読めるように工夫していた。授業者の発問に対する生徒の答えの中から新出単語を取り上げたり、新出単語を学習して知識が増えた状態で生徒に再度テキストを読み直させたりして、発問をきっかけに本文を深く読み込むため

の工夫した指導ができていた。生徒に発問づくりをさせる際に、ハンドアウトを活用して 5W1H の作り方やヒントを示したり、Yes/No で答える発問でもよいことを伝えたりして、それぞれの生徒のレベルを考えた段階的な指示を行っていた。学習形態をペアやクラス全体とそれぞれの活動に合わせて工夫して変更し、生徒同士が向き合っ顔を合わせたり、1人の生徒が作った発問をクラス全体で共有して他の生徒が回答したりという方法で、生徒同士が英語で「やり取り」をする時間を多く設けていた。生徒が誤った回答をした場合に、授業者はミスを受け入れたうえで *but*・・・と修正し、正しい形で再度回答させる姿勢を徹底していた。

これらの学習活動は、第12回授業から第14回授業での模擬授業の内容と指導方法を考えさせるための背景的知識となるものである。

模擬授業は、受講者は3人1組を作り、1回の授業ごとに1人が教師役になり他の2人を生徒役に見立て授業を行うようにした。本授業では受講者を全8グループに分け、講義室の8カ所で一斉に模擬授業が行われるのである(図1)。使用する教科書は New Horizon English Course 2 (東京書籍)であり、その中から受講者は授業で使いたい本文内容や文法事項を選び準備をするのである。模擬授業では、それまでに学習した発問づくりについてのスキルを試すことが可能である。

模擬授業は概ね次の(1)から(5)の内容と順番で3回実施された。授業後、模擬授業担当者は自身の取組についてのレポートを、生徒役の受講者は授業を客観的に分析するレポートをそれぞれ作成し、授業実践力を高めることができた。

- (1) 模擬授業を行うための単元計画、前時の指導内容、家庭学習、想定される生徒像など背景の説明、授業で焦点を当てる部分の説明(5分)
- (2) 模擬授業(35分)
- (3) 自評(5分)
- (4) 相互評価(10分)
- (5) まとめ、コメントシートへの記入(15分)

図1 8カ所で実施される模擬授業



3. 学生のアンケート結果（授業評価）と課題

授業評価では通常の DP 評価項目に加えて、発問づくりと授業実践力の向上について調査を行った。教育学部生の 18 人から回答を得た。まず、「この授業を通して、教科書英文を使った発問づくりの方法について理解を深めることができた」という項目について、「とてもそう思う、ある程度そう思う、あまりそう思わない、全くそう思わない」の 4 件法で回答を得た。18 人中の 14 人が「とてもそう思う」、4 人が「ある程度そう思う」と回答し、発問づくりについてある程度の知識とスキルが身に付いたと考えられる。次に、「この授業を通して（模擬授業を含む）、学習指導案の作成、指導技術、授業を改善する力を向上することができた」とについて、同じく 4 件法で回答を得た。18 人中の 11 人が「とてもそう思う」、7 人が「ある程度そう思う」と回答したことから、ある程度の授業実践力を向上させることができたと考えられる。

次年度への課題は、受講生が作成した発問を受講生同士で質疑応答やディスカッションを通して、発問の質と量を向上させるよう指導することである。そのためには、発問づくりについての知識とスキルの獲得と同様に、教材となる教科書英文の深い理解が欠かせない。あらかじめ内容理解や背景知識理解のためのヒントを提示してから本文を読ませるなどしたい。

4. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」

3 回生前期の開講授業の後、教育学部生は 9 月から 4 週間の教育実習を行う予定である。教育実習での授業において、発問はどの教科でも重要である。また、教育実習を経て松山市内の中学校で学習アシスタントをする履修者にとっては、授業で学習した発問づくりや模擬授業の内容は実習校での実践を理解したり省察したりすることができ、理論と実践を往還させることができている。